

マニュアル8 状況に応じた行動

災害は、いつ・どこで発生するかわかりません。自分のいる場所や周りの状況に応じて対応は異なります。ここでは、様々な状況に応じた行動の仕方について紹介します。

●地震発生！こんな場所にいたらどうする？

ブロック塀に囲まれた路地



- ① ブロック塀が倒れてくる恐れがあります。
- ② ブロック塀から離れ、揺れがおさまってから、近くの公園や空き地に避難しましょう。

※ 昭和 53(1978)年 6 月 12 日の宮城県沖地震（死者 28 人）では、老朽化したブロック塀が崩れ、下敷きとなって 18 人が亡くなっています。高さ 1.6m、長さ 1m のブロック塀の重さは 320kg～400kg です。自動販売機や高さのある看板も同じように危険です。

高い建物がある街中



- ① 窓ガラスや看板が落下する恐れがあります。
- ② カバンなどで頭を保護して、近くの公園や空き地に避難しましょう。

※ 最新のビルは、耐震性が高く防災設備も整っているので、ビル内に待避することも一つの手段です。

キッチンで調理中



- ① 鍋が飛んできてやけどをしたり、火が燃え移って、火災になったりする恐れがあります。
- ② すぐにその場を離れて机の下などで揺れがおさまるのを待ちます。揺れがおさまったら、火を消して、ガスの元栓を閉めましょう。

※ 揺れが小さい場合はただちに火を消します。揺れが大きいときは揺れがおさまってから火を消してガスの元栓を閉めます。

デパートで買い物中



- ① 棚にある商品が落下したり、飛んできたりして、ケガをする恐れがあります。
- ② カバンなどで頭を保護し、商品棚から離れ、柱や壁ぎわに身を寄せましょう。
- ③ 場内放送や係員の指示に従って、落ち着いて避難しましょう。

※ 大勢の人々が一斉に出口に殺到すると、思わぬ事故を引き起こしてしまいます。

エレベーターの中



- ① 地震の衝撃で、エレベーターのドアが開かなくなる恐れがあります。
- ② 揺れを感じたら、すぐにすべての階のボタンを押して、停止した階で降りましょう。
- ③ 閉じ込められた場合は、非常ボタンを押し続け、非常用電話で救助を求めましょう。

※ 平成17(2005)年7月23日に起きた千葉県北西部を震源とする地震では、1都3県で47件のエレベーターの閉じ込めが発生しました。

地下街



- ① 耐震性があり防災設備が整っているため、比較的安いです。
- ② 放送や係員の指示に従って、落ち着いて避難しましょう。

※ 指示がない場合には、カバンなどで頭を保護し、壁伝いに歩いて最も近い出口から地上に出ましょう。

●こんなときにはどうする？

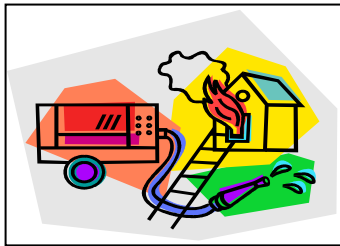
海岸や河口近くで揺れを感じたら



- ① 津波警報・注意報や避難指示が出た時は、すぐに避難します。警報などが出ていなくても、強い揺れを感じたときや長時間揺れたときには避難しましょう。
- ② 逃げるときには「より遠く」ではなく「より高い」場所へいきます。間に合わないときには丈夫な高い建物の上の階へ逃げましょう。

※ 津波は2回、3回と繰り返し襲ってくる場合があります。ラジオや防災行政無線で正確な情報を集め、警報・注意報が解除されるまで海岸へは近づかないようにしましょう。

火災が発生したら



- ① 「火事だ！」と大声を出して、隣近所に助けを求め、ただちに119番通報しましょう。
- ② 消火器や水のほか、ビショビショに濡らしたシーツなど手近なものを活用して消火しましょう。
- ③ 避難するときは、燃えている部屋のドアや窓を閉めて延焼を防ぎましょう。

※ 出火から3分以内が自分で消火できる限度です。火が天井まで燃え移ったら、いち早く避難しましょう。なお、火災による死者の半分近くが一酸化炭素中毒や窒息によるものです。火災により発生する煙には、十分注意しましょう。

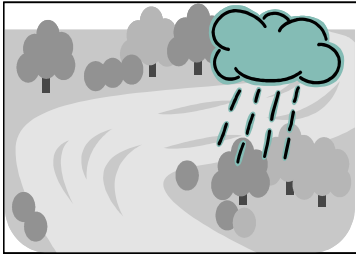
大雨の中で避難するときには



- ① 冠水した場所を歩くときは、長い棒を杖がわりにして、水面下の安全を確認しながら歩きましょう。
- ② 河川の近くには近づかないようにしましょう。
- ③ 一人で行動せず、何人かでまとまって避難しましょう。

※ 水の深さが腰まであるようなら、無理をせず高いところで救援を待ちましょう。

河原で集中豪雨にあったら



- ① 上流から急に濁流や鉄砲水が押し寄せてくる恐れがあります。
- ② 雨が降ってきたら、キャンプや水遊びは中断して、川原から離れましょう。
- ③ 台風や大雨の予報が出ている時には、キャンプなどは行わないようにしましょう。

※ 鉄砲水は下流で晴れていても発生します。上流で雨が降り、水量が急激に増すと、水とともに土や石が流れてきます。周辺地域の天気予報にも注意しておきましょう。

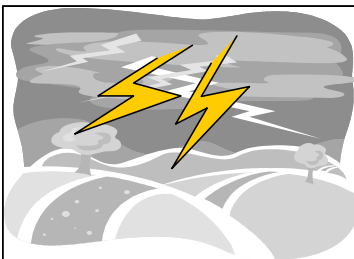
強風が吹いていたら



- ① 屋根の瓦、看板などが飛んでくる恐れがあります。
- ② 暴風時には外出をしないようにしましょう。
- ③ 外出している場合は、建物の中に入り、窓から離れた場所で待機しましょう。

※ 台風通過時、台風の目の付近で風がいったん弱まり、そのあと再び強く吹く「吹き戻し」が起こる恐れがあります。風が弱まったからといって、安心してはいけません。

雷が発生したら



- ① 落雷によって感電する恐れがあります。
- ② 木の下や軒先で雨宿りするのは危険です。屋内に避難して、電気器具や壁から離れましょう。
- ③ 車や電車の中は比較的安全です。

※ 昭和 42(1967)年、西穂高岳で落雷により死者 11 人、負傷者 14 人という被害がありました。

近年の自然災害による死傷者数等（警察庁『警察白書 平成 23 年度版』）

	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年	平成 22 年
死者・行方不明者数	58 人	30 人	51 人	77 人	30 人
負傷者数	676 人	3074 人	851 人	665 人	273 人